「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける　No.18」
多様なユリ（百合）咲き誇る(1)　Variety of Lilies 」

2020年7月17日

　都知事の名を挙げるまでもなく、日本女性には百合子の名が多い。百合が人々に愛されているからに違いない。でも、その理由は？昔は和服姿で歩く姿が山百合を思わせたからと思われる。現代では？白い百合の花言葉「純潔」「威厳」（高貴）によるのかも知れない。花の色が違うと花言葉が違ってくるのも面白い（例えば、ピンク色は虚栄心、黄色は陽気）。
　では、ユリの漢字がなぜ「百合」なのか？ユリの根が何枚もの鱗片が合わさっているから、ネット情報と教えてくれた。目に映る花の姿ではなく、地中で栄養を蓄えている根の姿に由来するとは。家族愛に溢れる母をイメージさせる。
　最近は、実に多様なユリが咲き誇っている、というのが私の印象だ。例えば、日比谷公園には色とりどりのユリ(２８種、１万２６００本余)が一面を覆っている。（https://www.youtube.com/watch?v=NkfdNkVeTbQ）。しかし、近隣を歩いているだけでも多様なユリに出遭える。ヤマユリ、オニユリ、テッポウユリは子ども時代から知っていたが、他の名前は知らず、スカシユリと一括りしていた。今回撮影したユリを調べると、日本原種以外に園芸種が多く作られていることが分かった。
　なお、ユリ科のノカンゾウ（野萱草 ）は素朴だが、その野生性が私は好きだ。

http://sengawacx.com/LookNatureNo18a_2020.jpg

http://sengawacx.com/LookNatureNo18b_2020.jpg